

## S子さんの人生 そして… 遠くの親戚より近くの他人

裕福な家に生まれ、お嬢様育ちのS子さん。口癖は「めっちゃ両親と3人の兄に可愛がられた」と。女学校を卒業すると大手銀行に就職。結婚する子どもには恵まれず、サラリーマンだった夫を早期退職させ不動産業を行い一儲けをした。景気が良い時でもあり、庭付き一軒家を建て、夫婦で海外旅行や観劇などを楽しんだ。



そして介護が必要になった時は「お金で解決すればいい…」と。

高血圧、糖尿病があるのに冷蔵庫の中には食べ物で一杯である。「好きな時に好きな食べ物がないと嫌なのよ」と言う。食事は寿司の出前やピザの宅配。更には通販で沢山の買い物をして、好きな物にはいくらでもお金を使う…。



いくらあれば  
足りるの…?

「そのために一生懸命夫婦で働いてきたんだから…」と。

夫が亡くなると急にS子さんの認知症は進んだ。

「ヘルパーがお盆を持って行った！リモコンがなくなった！」など、物盗られ妄想も始まる。甥が後見人になろうとするが拒否。「何もしてくれない親戚なんかは何もあげたくない…」をくり返し、いつしか親戚に連絡しても来てもらえず。

3年前から心不全を何度もくり返し、三途の川を渡りかけたことも何度もあった。

『ケアホーム希望』の泊まりのサービスを利用し、生活管理や体調管理を行えば長生きはできる。今年の正月に「家に帰りたい！」と大騒ぎをし、帰宅すると好き放題食べ、飲んで体調を崩す。すぐに泊まりのサービスを利用。医者や看護師が関わり元気を取り戻すと、5月の誕生日も無事に迎え、7月の七夕の短冊には「あと10年がんばろう」と書いた。



病気が悪化し透析寸前であってもいつも前向きで「今日も楽しかったわね。明日は何をするの？」と、必ず職員に聞いてから就寝する。コーラス部だったS子さんは夜中にも楽しそうに歌う。自分の意志をノートにも書いた。意識がなくなったら身内を呼んでもいい…

そんなS子さんがとうとう急変した。朝方に自分で点滴を抜き、酸素マスクを当てると首を振り拒否をする。「ありがとう」の言葉を何度もくり返し、最後の最期まで自分の意思を貫き天国へと旅立った。

S子さんと関わった15年間は色々なことがあり、今思えばあっという間の日々であった。一緒に笑った。わがままに腹を立て迷惑をかけられることもいっぱいあった。ケンカもした。認知症が進んで忘れることが多くなっても「みんながいるから寂しくないよ」と、いつも笑顔でいてくれた。私たちは、S子さんが大好きで家族のような関係だった。S子さんの人生の最期のページに関われたことに感謝している。

そして、これからは天国から私たちを見守ってね。



享年83歳

# 祝 敬老会

とてもうれしい!

こんなに食べれるかしら?

美味しそ〜ね

お寿司は好きですね〜

ありがとう

私たち まだまだ長生きしましょうね

そうね

94歳

93歳

大正生まれの仲

いつもと違う雰囲気緊張しますね…

感謝状…嬉しいな〜

乾杯!

今日は…すごいご馳走ですね〜

おまんじゅうありがとう

祝 祝

Thankyou

9月19日（祝・敬老の日）は、各地で高齢者を敬う“敬老会”が行われました。

日本全国の平均寿命は83歳ですが「ケアホーム希望」の平均年齢は84歳。

100歳を超える高齢者は昨年6万人を超えました。

医療の進歩、健康意識の高まりで寿命は年々伸びています。

いつまでも元気で長生きしてくださいね。

